様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月１日現在

機関番号：３３８０４
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：２２５９２４２３
研究課題名（和文）「新人」から「一人前」看護師への移行期を支える学習支援システムの構築
研究課題名（英文）Construction of education support system from new comer nurses to professionally skilled nurses.
研究代表者
山崎　律子（YAMAZAKI　RITSUKO）
聖隷クリストファー大学・看護学部・臨床准教授
研究者番号：20573794

研究成果の概要（和文）：地方の急性期病院に勤務する「新人」から「一人前」看護師を対象とした研究を行い、自己の学習ニーズに合わせて選択可能な「シミュレーション研修」「シミュレータ教育」「e-learning」「他職場研修」から成る学習支援システムを提案し、看護実践能力の習得状況を3年間縦断調査した。その結果、学習支援システムが、新人期に未体験・未習得の看護基本技術項目を3年目迄に補完する（山崎、2012）ことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：We researched through “new comer” to “professionally skilled” nurses who worked at a local acute care hospital , and proposed an education support system consists of four subjects “simulation training” , ”simulator education” , “e-learning” , and “training at another ward” which nurses can chose from their educational necessity, and researched the situation of acquirement on practical nursing skills for three years.
The result revealed that this system helps them to acquire fundamental nursing skills in three years which they haven’t learned at the time of new comer.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	2,200,000	660,000	2,860,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
２０１２年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学
キーワード：新人・一人前・2～3年目・移行期・到達度・学習支援システム・学習支援プログラム・一般化

様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

新人看護師の早期離職率が社会的問題となり、平成 15 年に新人看護職員を対象とした指導指針が初めて体系化（厚生労働省：新人看護職員研修到達目標及び新人看護職員研修指導指針）された。しかし、それに引き続く制度は存在せず、2 年目・3 年目看護師の育成については各病院施設に一任されている。2 年目・3 年目は「新人」から「一人前」への移行期であり、役割移行を促す支援の必要性がある。しかし、教育のマンパワーが不足した臨床現場では、新人看護師に対する教育支援が最優先され、2 年目・3 年目の支援にまで手が回らない状況に陥っている（西浦ら；1997）。

研究代表者らは、地方の急性期病院に勤務する 2008 年度新人看護師を対象とした調査を実施した。その結果、新人看護職員研修指導指針に則った研修を実施しても、入職後 1 年の未習得技術が複数存在すること（山崎；2009）、新人看護師が 1 年を通して知識・技術の習得を希求していること（Sakata;2009）が明らかとなった。また、入職後１２ヶ月目の新人看護師が、一人前看護師の役割獲得に向けて知識・技術に不安を抱えている状況も明らかとなった（坂田；2009）。そこで、「新人」から「一人前」への移行期の 2 年目・3 年目看護師の知識・技術・態度の習得を促す組織的な支援の必要性を再確認した。また、2 年目看護師が主体的に学習活動に取り組むが、周囲の役割期待に負担を感じている（高橋ら；2008）ことを踏まえて、2 年目・3 年目看護師の主体性を尊重した学習支援システムの構築を最優先した。

<表1　学習支援システム H21 を用いて展開するプログラムの学習内容>

学習支援システム		自己学習の支援		看護実践の支援
		シミュレーター教育	e-learning	シミュレーション教育
学習支援プログラム	◎療養上の世話 セルフケア不足	摘便、オムツ交換 食事介助、口腔ケア		職場配属型研修
	◎診療の補助 <排泄管理> <薬物管理> <栄養管理> <呼吸管理>	導尿、浣腸 座薬、点滴静脈内注射 皮下注射、筋肉注射 経管栄養 BLS、気道吸引	麻薬の管理 救急薬の薬理作用 栄養アセスメント 呼吸アセスメント	内服指導 急変時対応
	◎意思決定支援		看護倫理	治療と看護の選択

本研究で開発する学習支援システムには、既に効果が認められている自己学習支援システム（e-learning）、モデル人形を用いたシミュレータ教育、看護基礎教育で近年注目されるシミュレーション教育を取り入れた。本システムは「新人」から「一人前」看護師への移行期の 2 年目・3 年目看護師が看護の専門的知識・技術・態度を習得する過程を支援するものであり、キャリア初期の看護師の看護専門職業人としてのキャリア発達に貢献するものである。

２．研究の目的

本研究の目的は、【自己学習の支援】【看護体験の支援】から構成される学習支援システムを構築し、その効果を検証することである。本研究では、以下の課題に取り組む（図１）。

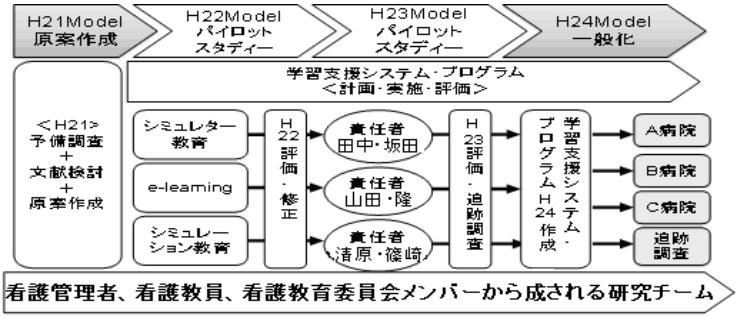


図１　研究の枠組み

１）【自己学習の支援】【看護体験の支援】から構成される学習支援システムを構築する。
２）「新人」から「一人前」看護師への移行期にある看護師に学習支援システムを提供し、その効果を検証する。
３）学習支援システムの一般化に向けた学習支援プログラムの内容の精選を行う。

３．研究の方法

１）学習支援システムの構築

学習支援システムおよびプログラムのコアとなる学習内容・学習方法については、既存の文献とこれまでの研究をもとに研究者間で検討する。

２）学習支援システムの効果の検証

（１）質問紙調査：
①厚生労働省「新人看護職員研修到達目標」の項目使用調査票
②シミュレーター使用アンケート調査

（２）対象：地方都市にある急性期病院に勤務する看護師

（３）調査時期：2009 年 6 月（3 ケ月後）2009 年 10 月（6 ケ月後）2010 年 2 月（11

ケ月後）2011 年 2 月（2 年後）2012 年 2 月（3 年後）

（4）分析方法：群内（各年度内の時系列データの比較）および 3 群間（2010 年度・2011 年度・2012 年度の実施データの比較）で検討する。

3）学習支援システムの一般化に向けた内容の精選

（1）プログラムの問題点の明確化

2010・2011・2012 年度の結果をもとに、本プログラムの問題点を明らかにする。

（2）一般化に向けた検討

近隣施設の継続教育担当者と意見交換を行ない、他施設におけるシステム利用可能性について検討する。

4．研究成果

1）学習支援システムの構築

(1) 学習支援システムの特徴

【自己学習の支援】【看護体験の支援】から構成される学習支援システムを構築した。本システムの特徴は「システムを活用する 2 年目・3 年目看護師がシステムで展開される学習方法・学習内容を自己の学習ニーズに合わせて選択できる」ことにある。

学習支援システムでは、①訓練の必要な看護技術（シミュレーション教育）、②学び直しの必要な知識（e－learning）、③看護師に必要な態度（模擬患者セッション）の習得を支援する。

(2) 学習支援プログラムの作成

学習支援プログラムのコアとなる学習内容・学習方法は、2009 年度の調査結果（山崎 2009, Sakata2009, 坂田 2009）より抽出した。『療養上の世話』『診療の補助』『意思決定支援』の知識・技術・態度の習得を促すプログラムを作成した（表 1）。

2）学習支援システムの効果の検証

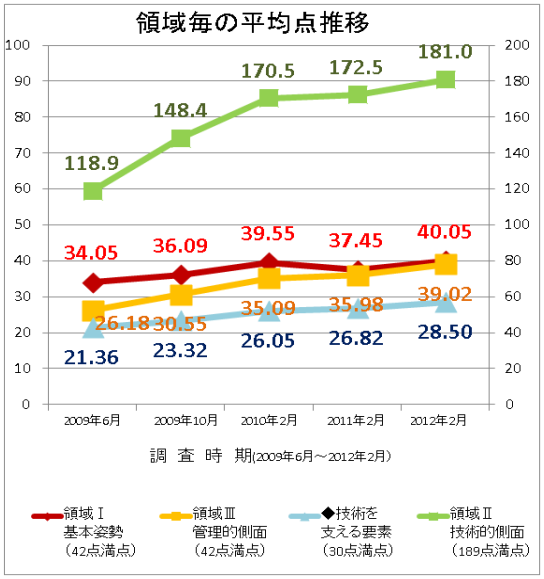
（1）システム利用者

2009 年　新卒者 79 名、2010 年　新卒者 72 名、2011 年　新卒者 68 名。

（2）シミュレーション教育

シミュレーション教育の活用により、2 年目までに看護技術到達度の低い項目の到達度が 3 年目で上昇した。シミュレーション教育により未体験の看護技術の到達度を保障することができた。

（図 2 :5 期調査にすべて協力があった 32 名。領域毎の平均点推移）



（2）e－learning

自己学習を支援するために e－learning のコースを追加した。使用している総数と年代別調査により、学び直しが必要な 3 年目以上での使用が多い結果を得た。

3）学習支援システムの一般化に向けた内容の精選

（1）プログラムの問題点

システム活用に対する要望のあることを確認した。施設によって新人看護師の採用数や継続教育の運用が異なり、「部分的な企画のみ使用」をしたい要望への柔軟な対応と、さらなる情報交換が必要と考える。

（2）一般化に向けた検討

近隣施設の継続教育担当者 13 名と意見交換を平成 22 年度より開始し研修ニーズのある施設に対応した。今後も発展した関係とプログラム提供の継続が可能となった。

① 近隣他施設にの e－learning プログラムを提供した。

② 近隣他施設でシミュレーション教育（逝去時対応）のプログラムを提供した。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 12 件）

1）山崎律子・清原恵美・坂田五月・篠崎恵美子、「新人」から「一人前」看護師への移行期を支える学習システムの構築：3 年間の技術習得状況の推移、日本看護教育学会、

2013.8、仙台

２）清原恵美（・山崎律子）坂田五月・篠崎恵美子、「新人」から「一人前」看護師の技術習得の推移：職場配置からみた比較、日本看護教育学会、2013.8、仙台

３）山崎律子・清原恵美・坂田五月、「新人」から「一人前」看護師への移行期を支える学習システムの構築：3年間の技術習得状況の推移、日本看護管理学会、2013.8、東京

４）坂田五月（山崎律子）、若手看護師の職業や職場適応における認識の変化に関する研究、日本看護協会「看護管理」2012.10、神戸

５）坂田五月（山崎律子）、看護の経験から学ぶ新人看護師学習支援プログラムの開発に関する研究、日本看護協会「看護教育」2012.9、仙台

６）山崎律子・清原恵美・坂田五月・篠崎恵美子、新人看護職員研修における学習支援システムの利用可能性に関する研究、第２２回日本看護学教育学会、2012.8、熊本

７）山崎律子・清原恵美・坂田五月、「新人」から「一人前」看護師への移行期を支える学習支援システムの構築～シミュレーション研修の影響～、第１６回　日本看護管理学会年次大会、2011.8、札幌

８）山崎律子・清原恵美・坂田五月、「新人」から「一人前」看護師への移行期を支える学習支援システムの構築～３年目看護師の看護技術到達度の現状～、第１５回　日本看護管理学会年次大会、2011.8、東京

９）坂田五月（山崎律子）、キャリア初期看護師の職業的アイディンティティー卒業期間の相違による比較検討、第２１回日本看護学教育学会、2011.8、埼玉

10）清原恵美（山崎律子）坂田五月、「エンゼルケアにおけるシミュレーション研修の有用性」、日本看護学教育学会　2010.8、大阪

11)山崎律子・清原恵美・坂田五月、「看護師・助産師よる安全な静脈注射に関する研究～eラーニングを用いた自己学習支援プログラムの評価～」、本看護学教育学会、2010.8、大阪

12)山崎律子・清原恵美・坂田五月、「新人看護職員到達目標」到達度からみる「未体験技術」を保障する研修の検討」、日本看護管理学会、2010.8、横浜

６．研究組織

(1)研究代表者

山崎　律子（YAMAZAKI　RITSUKO）
聖隷クリストファー大学・看護学部・臨床准教授
研究者番号：20573794

(2)研究分担者

清原　恵美（KIYOHARA　EMI）
聖隷クリストファー大学・看護学部・臨床准教授
研究者番号：40573796

坂田　五月（SAKATA SATUKI）
聖隷クリストファー大学・看護学部・准教授
研究者番号： 90288407

篠崎　恵美子（SINOZAKI　EMIKO）
聖隷クリストファー大学・看護学部・准教授
研究者番号：50434577

(3)連携研究者

吉村　浩美（YOSIMURA　HIROMI）
聖隷クリストファー大学・看護学部・臨床教授
研究者番号：10573793

髙木　智美（TAKAGI　TOMOMI）
聖隷クリストファー大学・看護学部・臨床准教授
研究者番号：50573812